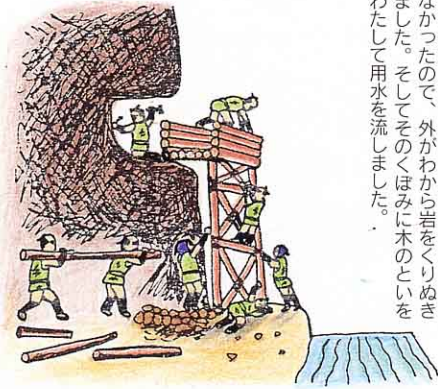


● 西根ぜきのくふうと苦心

▶ かがりのくふう ㊸



岩がかたくてトンネルをほるのが出来なかつたので、外がわから岩をくりぬきました。そしてそのくほみに木のといをわたして用水を流しました。



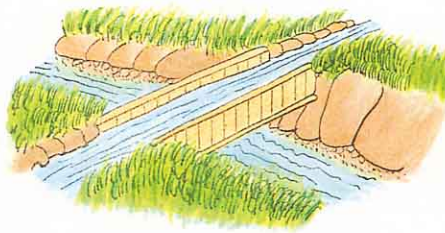
▲ もとの取り入れ口  
かたい岩に、今もみのあとがのこっています。㊸



▲ かがりのあと ㊸

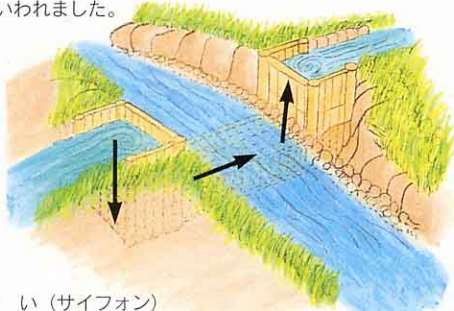


▲ 1982年に見つかったかがりのあと  
トンネルをほるのがむずかしかったので、川のがけにそって木のといをのせて用水をひいてきましたが、川岸のため何度も大水で流されました。㊸



◀ むかし

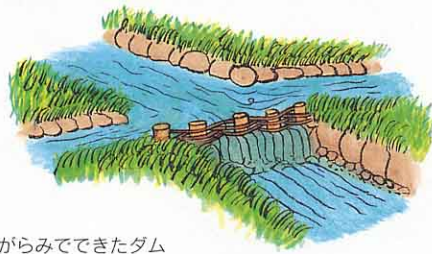
▲ といごし ㊹  
とちゅうの川の上は、といを渡して用水を流しました。今はコンクリートでりっぱになっています。といごすので、といごしといわれました。



▲ 箱とい (サイフォン)  
自然の川の流にせきの用水をさらわれないように、その下をくりぬかせました。水の落下する力が、またその水をおし上げるのです。箱のといを使ったので、箱といといわれました。



▶ 今



▲ しがらみでできたダム  
コンクリートのない昔は、木のくいや枝を組あわせて水をせきとめ、小さなダムをつくりました。そうすると自然の川とせきの用水がよい具合にあわさって、十字路に流れたのです。



きかいない時代に、すごい工事をしたのね。それが、今も使われているなんて、びっくりしてしまいます。水の流れをたどってみたいわ。